

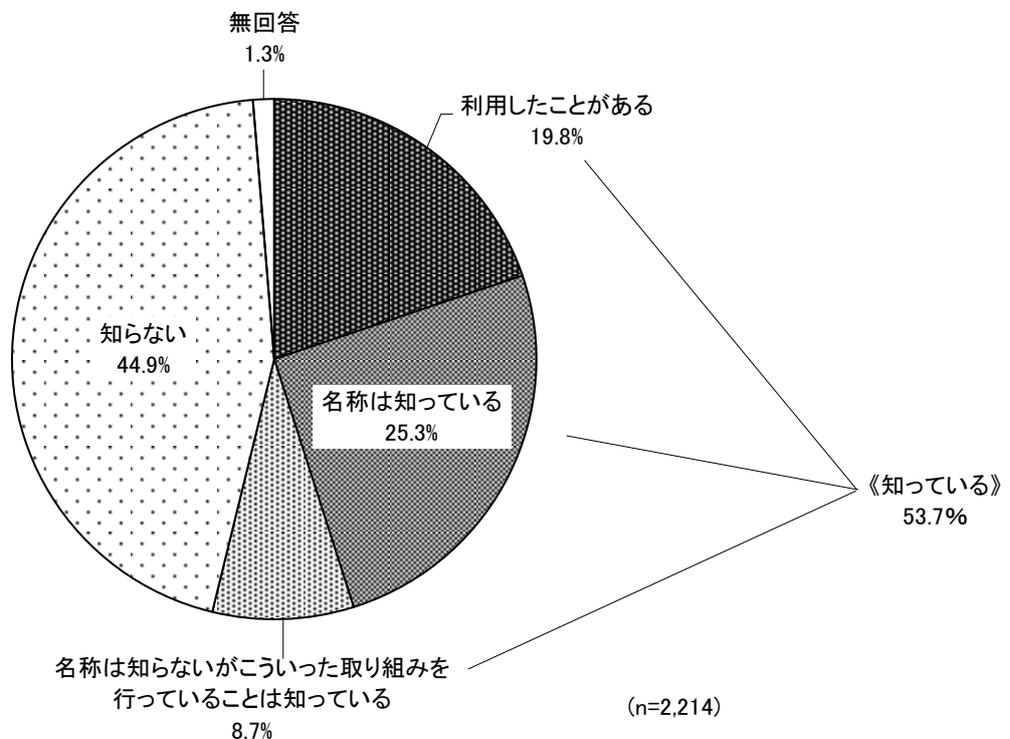
## 5. 福祉と医療

### (1) 「福祉の相談窓口」の認知度

◎ 《知っている》が5割を超え、「利用したことがある」は2割

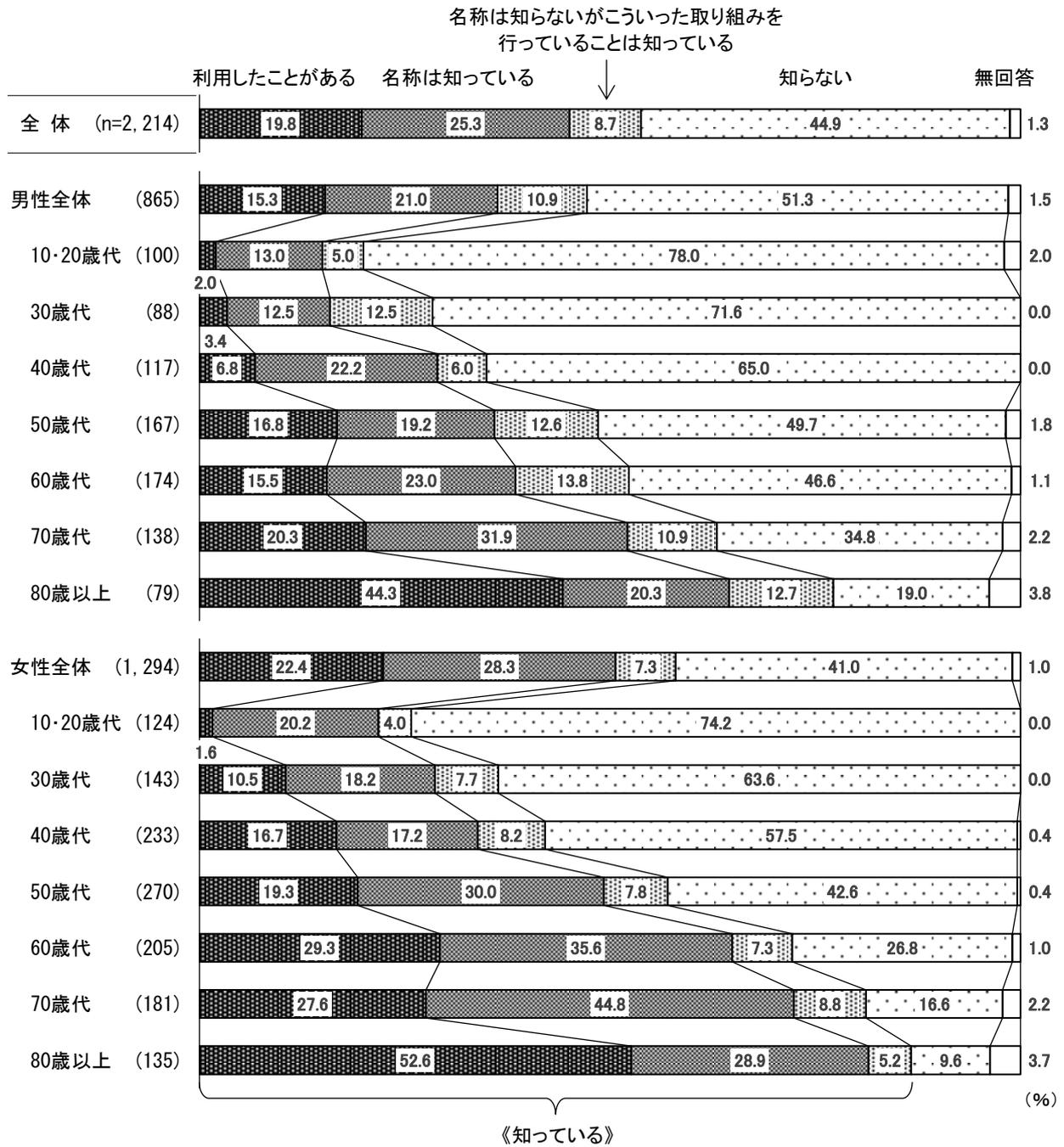
問14 あなたは、区内28地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して様々な福祉の相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（○は1つ）

図5-1-1



「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（25.3%）、「利用したことがある」（19.8%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（8.7%）を合わせた《知っている》（53.7%）が5割を超え、「知らない」（44.9%）が4割半ばとなっている。（図5-1-1）

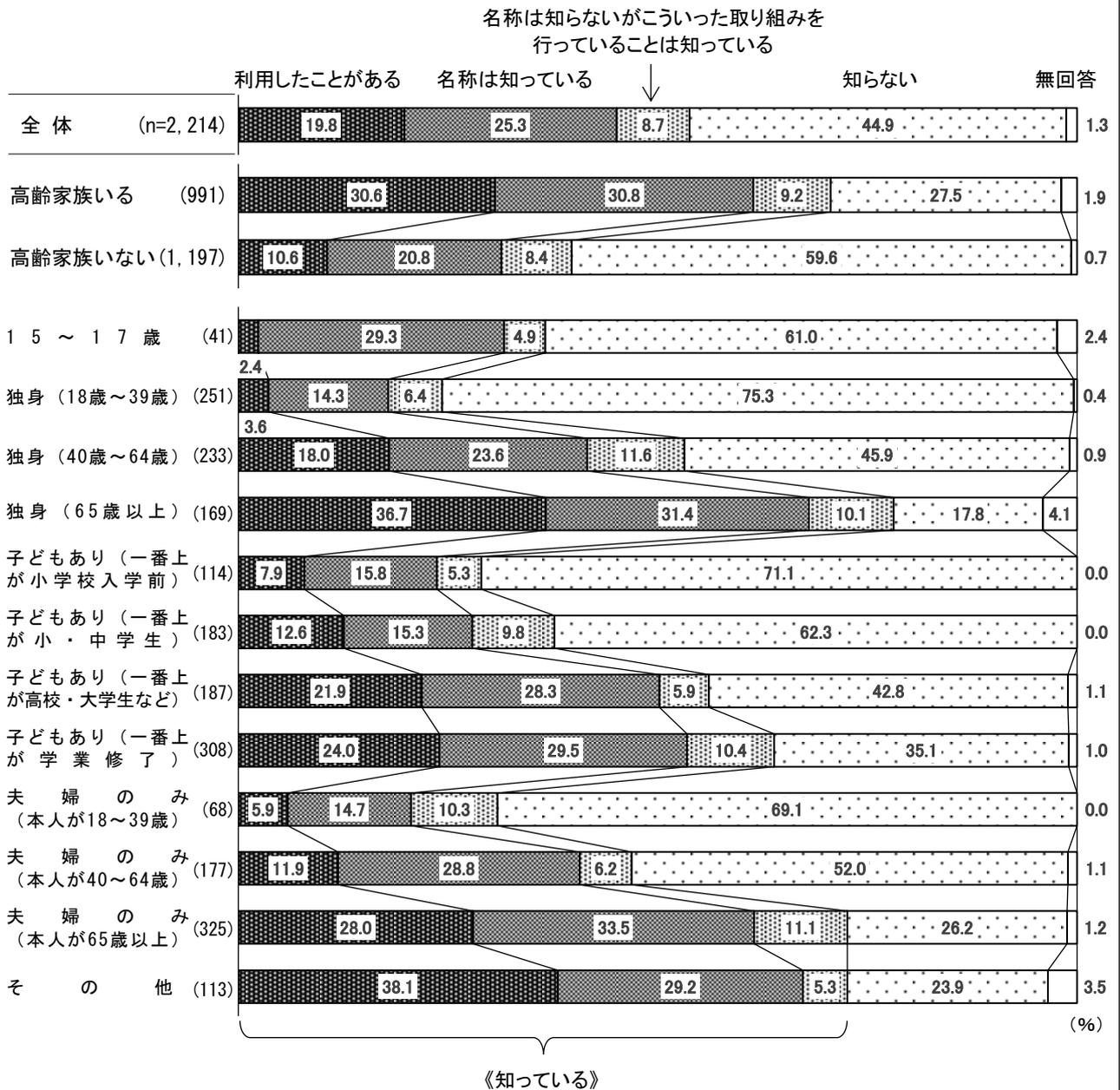
図5-1-2 「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男女ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で9割近く、女性の70歳代で8割を超え、男性の80歳以上で8割近くとなっている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で5割を超え、男性の80歳以上で4割半ばとなっている。

(図5-1-2)

図5-1-3 「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」がほぼ3割、「名称は知っている」もほぼ3割で、高齢家族がいない世帯より高い。

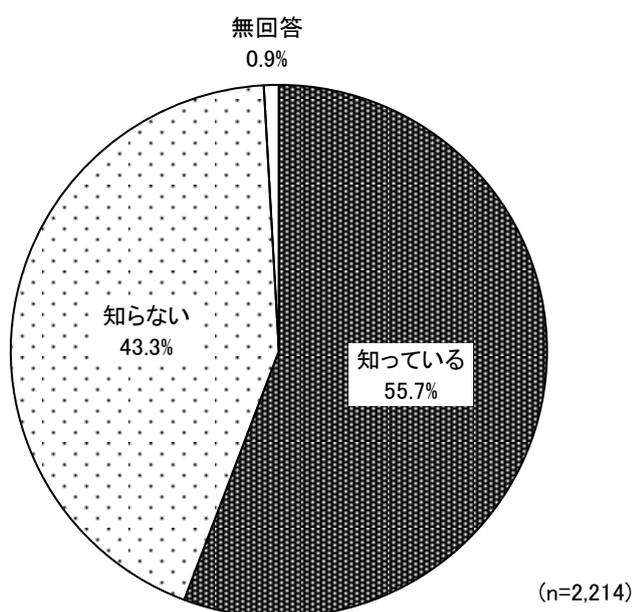
ライフスタイル別にみると、「利用したことがある」は独身（65歳以上）とその他で4割近く、夫婦のみ（本人が65歳以上）で3割近くとなっている。《知っている》は独身（65歳以上）で8割近く、夫婦のみ（本人が65歳以上）とその他で7割を超え、子どもあり（一番上が学業修了）で6割半ばとなっている。（図5-1-3）

## (2) 「在宅医療」の認知度

◎ 「知っている」が5割半ば

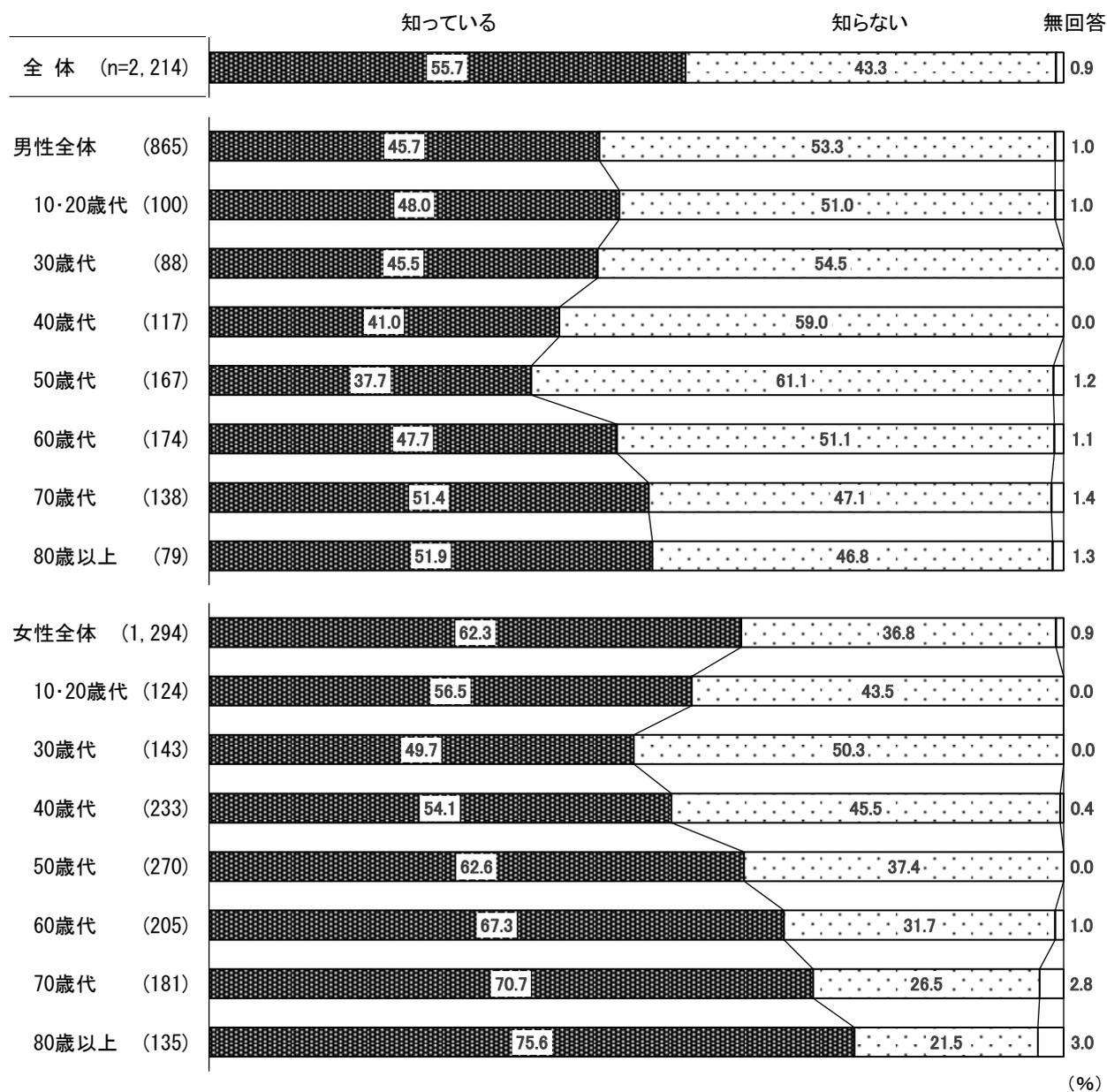
問15 あなたは、医療機関への通院ができなくなったときなどに、医師や看護師などの医療関係者が訪問することで、自宅等でも医療を受けられる「在宅医療」を知っていますか。  
(○は1つ)

図5-2-1



「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「知っている」(55.7%)が5割半ば、「知らない」(43.3%)が4割を超えている。(図5-2-1)

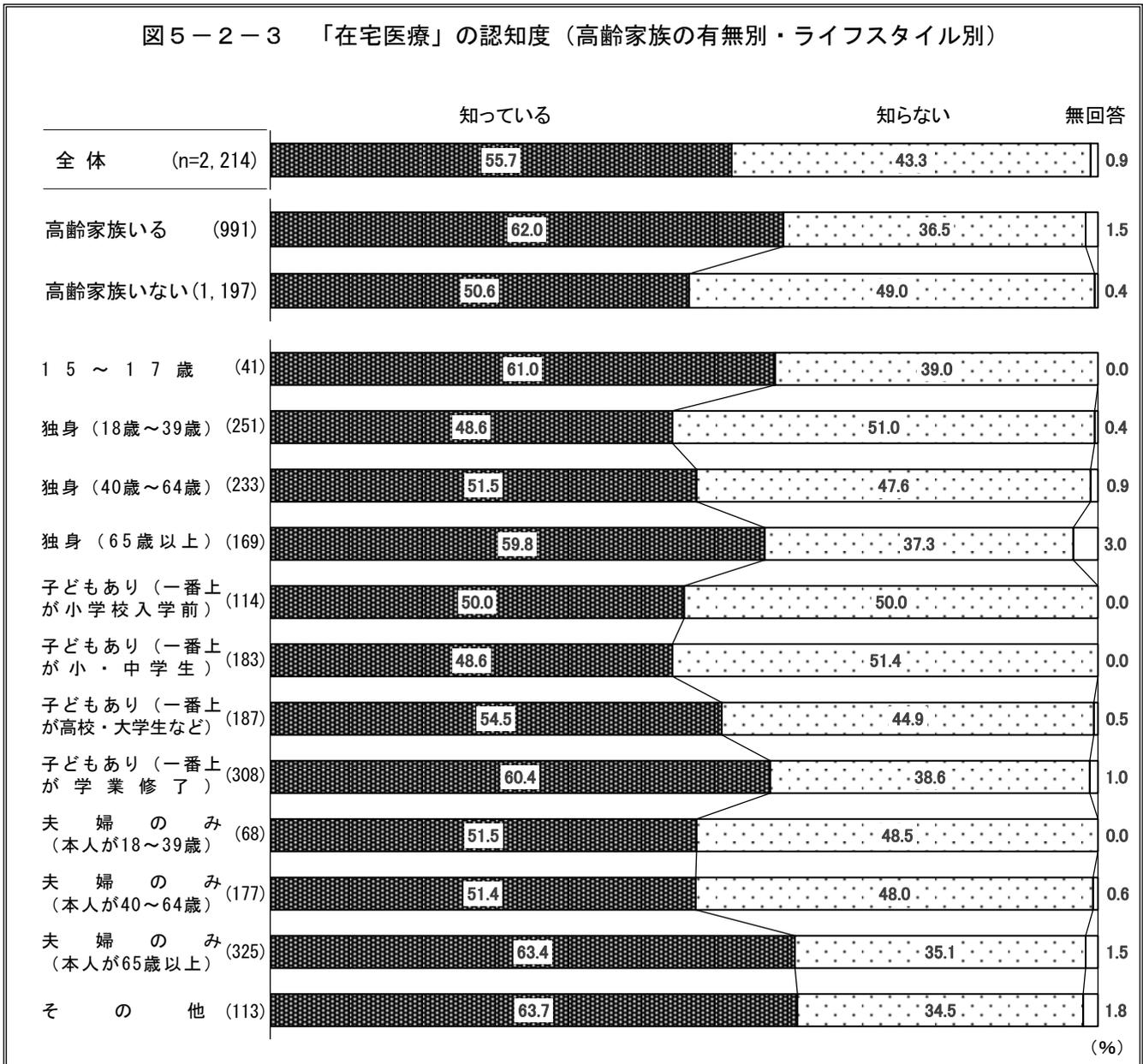
図5-2-2 「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「知っている」はすべての年代で男性より女性の方が高く、男性は50歳代が4割近くで最も低く、70歳代以上が5割を超えている。女性の「知っている」は30歳代が5割で最も低く、以降、年代が上がるにつれ高くなり、80歳以上は7割半ばとなっている。（図5-2-2）

図5-2-3 「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）



高齢家族の有無別にみると、「知っている」は高齢家族がいる世帯が6割を超え、高齢家族がいない世帯はほぼ5割となっている。

ライフスタイル別にみると、「知っている」は15～17歳、夫婦のみ（本人が65歳以上）、その他で6割を超え、独身（65歳以上）と子どもあり（一番上が学業修了）で6割となっている。「知らない」は独身（18歳～39歳）と子どもあり（一番上が小・中学生）で5割を超えている。

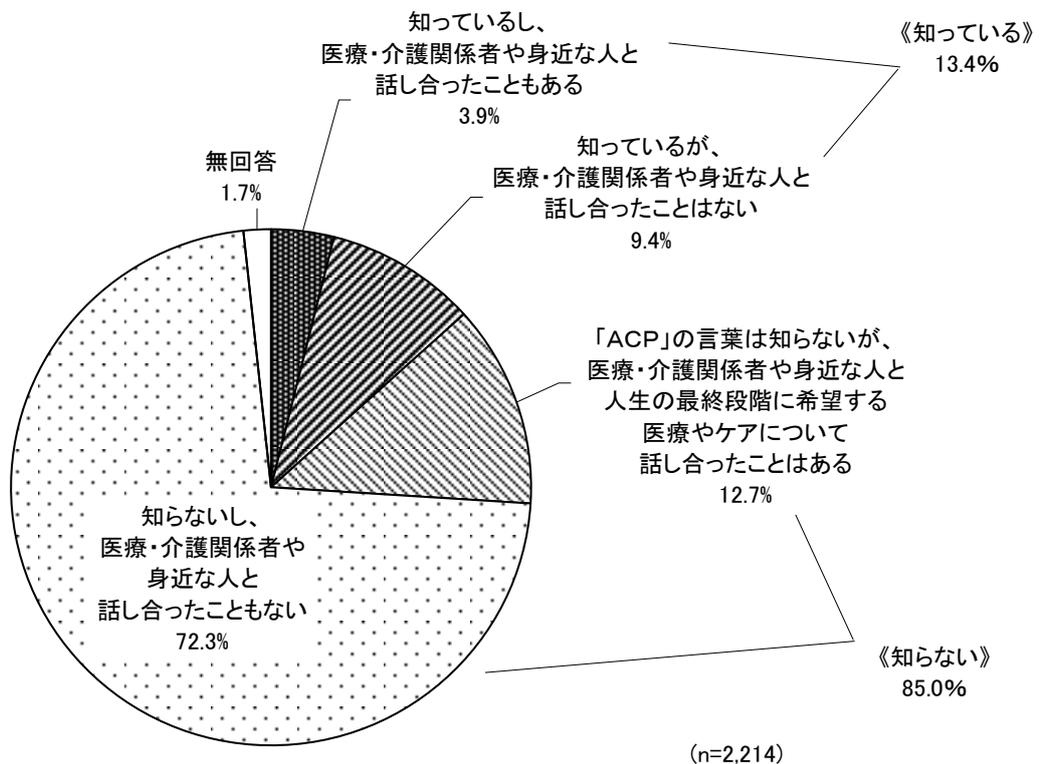
(図5-2-3)

### (3) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

◎ 《知らない》が8割半ば、《知っている》は1割を超える

問16 あなたは、「ACP(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)」を知っていますか。  
(○は1つ)

図5-3-1

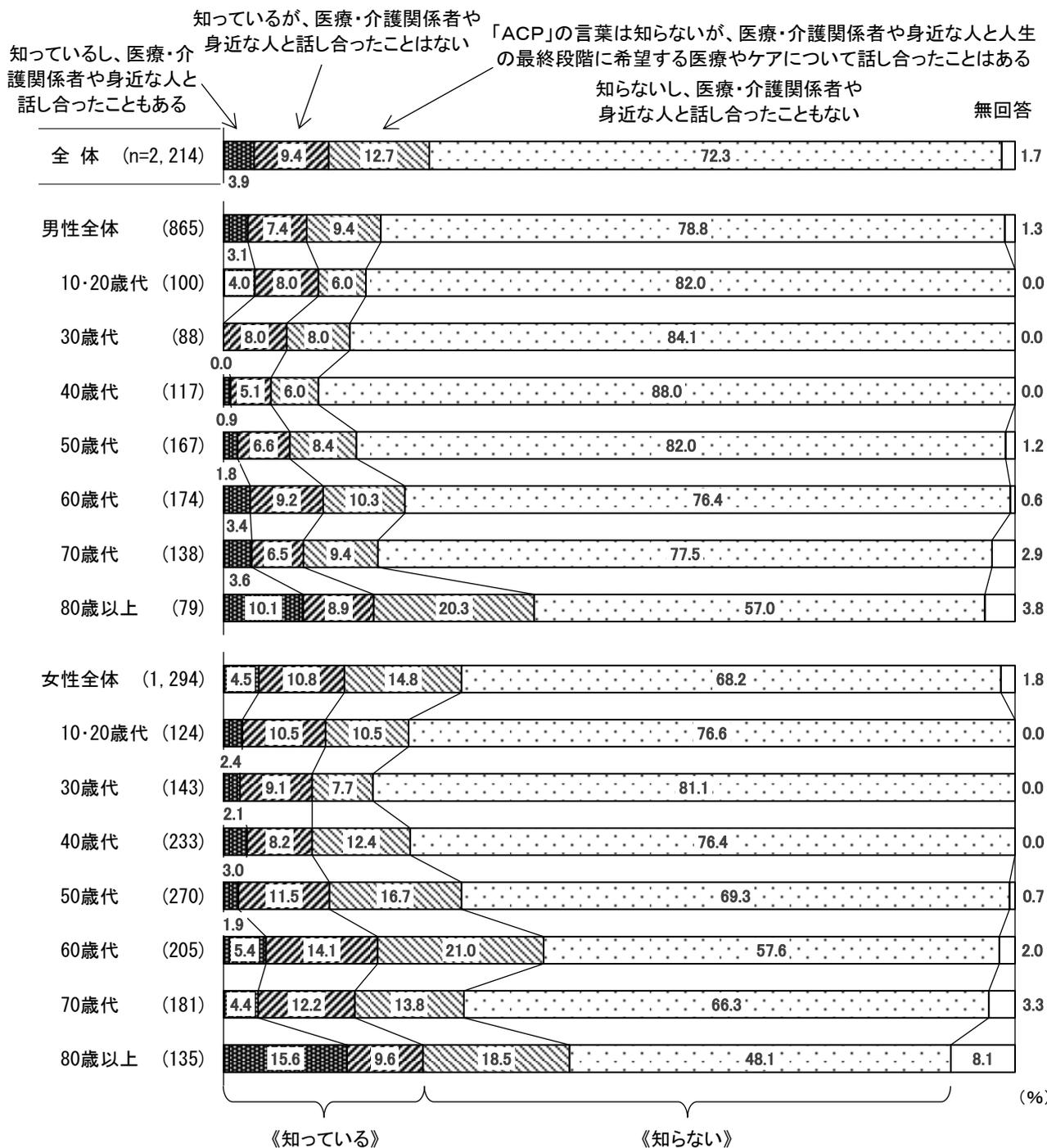


「ACP」の認知度を聞いたところ、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」(72.3%)が7割を超えて最も高く、「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する医療やケアについて話し合ったことはある」(12.7%)を合わせた《知らない》(85.0%)は8割半ばとなっている。「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」(3.9%)と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」(9.4%)を合わせた《知っている》(13.4%)は1割を超えている。

「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」と「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する医療やケアについて話し合ったことはある」を合わせた《話し合ったことがある》(16.6%)は2割近くとなっている。

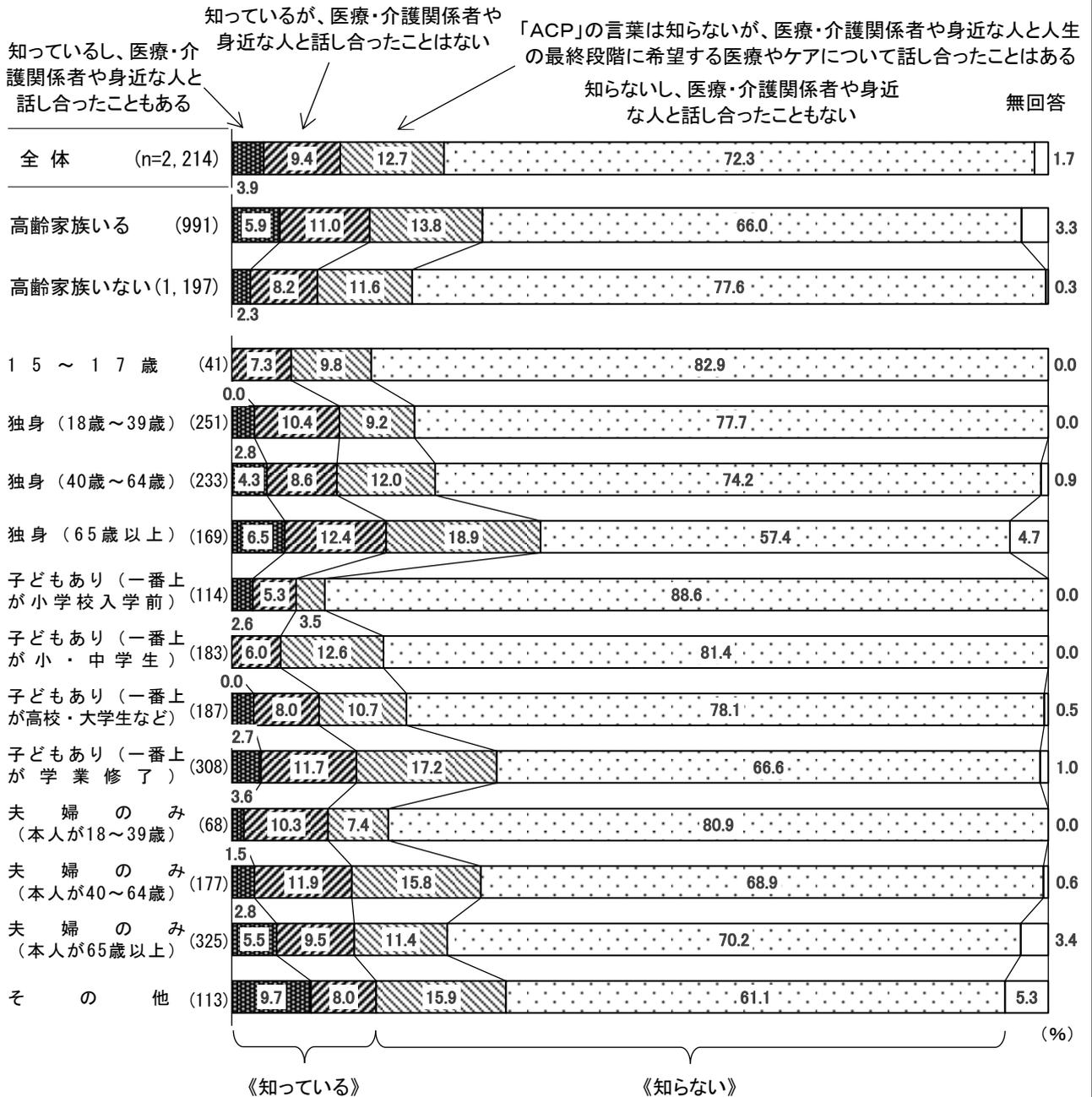
(図5-3-1)

図5-3-2 「ACP」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知らない》は男性の40歳代で9割半ば、男性の30歳代で9割を超え、男性の50歳代で9割となっている。《知っている》は女性の80歳以上で2割半ば、女性の60歳代で2割、男性の80歳以上ではほぼ2割となっている。《話し合ったことがある》は女性の80歳以上で3割半ば、男性の80歳以上で3割となっている。（図5-3-2）

図5-3-3 「ACP」の認知度（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）

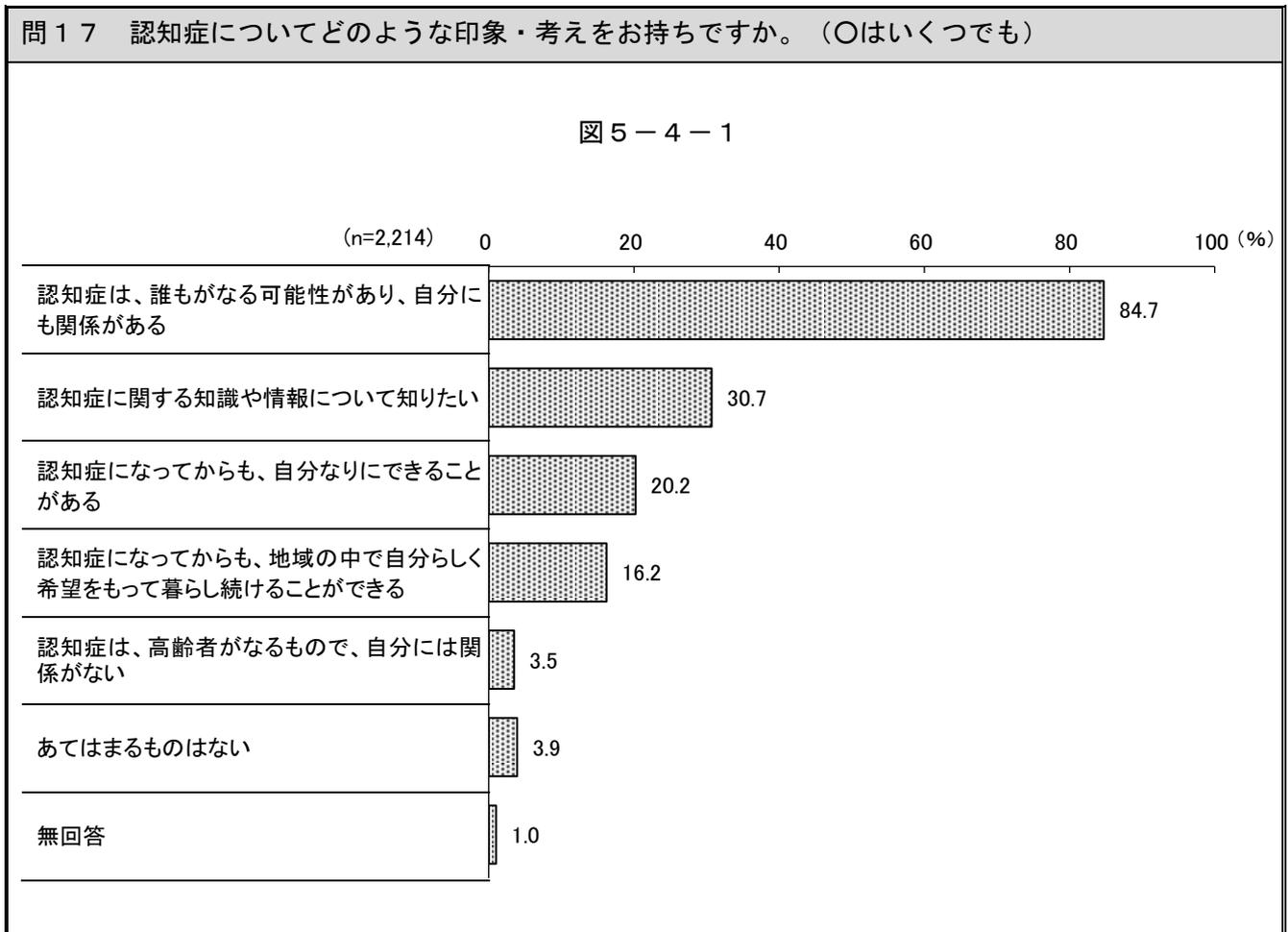


高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は《知っている》が2割近く、《話し合ったことがある》が2割で、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフスタイル別にみると、《知らない》は子どもあり（一番上が小・中学生）で9割半ば、15～17歳と子どもあり（一番上が小学校入学前）で9割を超えている。《知っている》は独身（65歳以上）とその他で2割近く、《話し合ったことがある》は独身（65歳以上）とその他で2割半ば、子どもあり（一番上が学業修了）でほぼ2割となっている。（図5-3-3）

(4) 認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」と考えている方が8割半ば



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」(84.7%)が8割半ばで最も高く、以下、「認知症に関する知識や情報について知りたい」(30.7%)、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」(20.2%)、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」(16.2%)などと続く。

(図5-4-1)

表5-4-1 認知症についての印象（性・年齢別）

		(%)							
		n	認知症は、 自分にも 関係がある 可能性があ る	認知症に関 する知識や 情報につ いて知り たい	認知症にな ることがあ るから、自 分なりに できること がある	認知症にな ってからも 、地域の中 で自分らしく 希望をもつ て暮らし 続けること ができる	認知症は、 高齢者が なるもので 、自分には 関係がない	あてはまる ものはない	無 回 答
全 体		2,214	84.7	30.7	20.2	16.2	3.5	3.9	1.0
性・ 年 齢 別	男性全体	865	83.6	27.6	16.0	12.6	3.9	5.2	0.8
	10・20歳代	100	76.0	18.0	8.0	9.0	10.0	7.0	1.0
	30歳代	88	71.6	15.9	15.9	8.0	11.4	9.1	-
	40歳代	117	81.2	27.4	11.1	8.5	8.5	4.3	-
	50歳代	167	82.6	32.3	16.2	9.6	1.8	7.2	1.8
	60歳代	174	90.2	25.9	17.8	13.2	0.6	4.0	-
	70歳代	138	90.6	36.2	21.7	18.1	-	2.2	-
	80歳以上	79	86.1	31.6	19.0	24.1	-	3.8	2.5
	女性全体	1,294	86.1	32.9	23.1	18.6	3.0	3.0	1.1
	10・20歳代	124	67.7	23.4	9.7	6.5	16.1	9.7	0.8
	30歳代	143	83.9	27.3	10.5	8.4	4.9	4.2	-
	40歳代	233	85.8	31.8	12.4	11.2	3.9	3.4	1.3
	50歳代	270	91.1	40.0	21.5	17.4	0.7	1.5	0.7
	60歳代	205	92.2	36.6	33.7	26.3	0.5	1.0	-
70歳代	181	89.0	32.0	42.0	30.9	-	0.6	2.8	
80歳以上	135	83.0	31.1	29.6	28.1	-	4.4	2.2	

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」はいずれの年代も6割～9割台と高い。「認知症に関する知識や情報について知りたい」は女性の50歳代で4割、女性の60歳代で4割近く、男性の70歳代で3割半ばとなっている。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の70歳代で4割を超え、女性の60歳代で3割を超えている。「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」は女性の70歳代ではほぼ3割、女性の80歳以上で3割近く、男性の80歳以上、女性の60歳代で2割半ばとなっている。（表5-4-1）

表5-4-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフスタイル別）

		(%)							
		n	認知症は、 自分にも 誰もが なる可 能性が ある	認知症に 関する 知識や 情報に ついて 知りたい	認知症に なっても 自分な りにで きるこ とがあ る	認知症に なっても 地域中 で自分 らしく 希望を もって 暮ら し続け ること がで きる	認知症は、 高齢者 がなる もので、 関係が ない	あては まるも のはい ない	無 回 答
全 体		2,214	84.7	30.7	20.2	16.2	3.5	3.9	1.0
高 齢 家 族 別	いる	991	86.5	33.8	27.5	22.4	1.0	3.1	1.4
	いない	1,197	83.8	28.1	14.3	11.2	5.3	4.6	0.7
ラ イ フ ス タ イ ル 別	15～17歳	41	73.2	26.8	12.2	4.9	14.6	7.3	-
	独身(18歳～39歳)	251	74.5	22.7	11.2	8.4	10.0	7.6	0.4
	独身(40歳～64歳)	233	85.4	33.0	18.5	13.3	3.9	4.7	0.9
	独身(65歳以上)	169	89.9	33.1	26.0	20.7	-	3.0	-
	子どもあり(一番上が小学校入学前)	114	77.2	23.7	8.8	7.9	8.8	6.1	0.9
	子どもあり(一番上が小・中学生)	183	80.3	27.3	10.4	7.7	7.1	4.9	0.5
	子どもあり(一番上が高校・大学生など)	187	92.0	34.8	16.0	13.4	-	2.1	0.5
	子どもあり(一番上が学業修了)	308	89.9	31.2	26.6	20.1	0.3	1.9	0.3
	夫婦のみ(本人が18～39歳)	68	73.5	22.1	16.2	5.9	13.2	8.8	1.5
	夫婦のみ(本人が40～64歳)	177	88.7	36.7	17.5	18.1	0.6	3.4	1.1
	夫婦のみ(本人が65歳以上)	325	88.9	33.2	32.3	27.4	-	1.5	1.8
	その他	113	80.5	39.8	28.3	23.0	-	5.3	3.5

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「認知症になってからも、自分なりにできることがある」が3割近く、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」が2割を超え、いずれも高齢家族がいない世帯に比べ高い。

ライフスタイル別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」は子どもあり（一番上が高校・大学生など）で9割を超え、独身（65歳以上）と子どもあり（一番上が学業修了）で9割となっている。「認知症に関する知識や情報について知りたい」はその他で4割、夫婦のみ（本人が40～64歳）で4割近く、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は夫婦のみ（本人が65歳以上）で3割を超え、子どもあり（一番上が学業修了）とその他で3割近くとなっている。（表5-4-2）